

「第2回 安波・普久川・辺野喜ダム 水源地域ビジョン策定委員会」の開催について

21世紀のダム管理の在り方として、従来から求められていた治水、利水効果の発揮だけではなく、水源地の自立的、持続的な活性化を図り、水環境等に果たす水源地域の機能を維持すると共に、自然豊かな水辺環境や伝統的な文化資産等を国民が広く利用できるよう、ハード、ソフト両面の総合的な整備を実施し、流域内の連携と交流によるバランスのとれた発展が期待されています。

内閣府沖縄総合事務局では、このような背景を踏まえ、やんばるの自然豊かな水源地域の活性化に向けて、安波・普久川・辺野喜ダム（国頭村）における水源地域ビジョンを策定するために、流域住民、関係行政機関、流域の自治体及びダム管理者により構成する「安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョン策定委員会」（委員長：大城保 沖縄国際大学教授）を本年8月8日に設置・開催したところです。

この度、下記により第2回の安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョン策定委員会を開催しますのでお知らせします。

記

- | | |
|---------|---|
| 1. 開催日時 | 平成15年12月8日（金） 10:00～12:00 |
| 2. 開催場所 | 国頭村立農民研修ホール（国頭村公民館2F）
国頭村字辺土名112番地 |
| 3. 委員会名 | 安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョン策定委員会（第2回）
委員名簿（別紙-1）、議事次第（別紙-2）、策定フロー（別紙-3） |
| 4. その他 | 委員会の議事は非公開。冒頭撮影可 |

平成15年12月5日

内 閣 府
沖 縄 綜 合 事 務 局

記者発表

沖縄総合事務局記者クラブ

問い合わせ先

内閣府沖縄総合事務局 開発建設部 流域調整室長 徳永 敏朗

電話番号 098-866-0031（代表）内線 3811
098-862-1457（直通）

〒900-8530 那覇市前島二丁目21番地7号

安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョン策定委員会

委員名簿

- | | |
|----------|---------------------------|
| ○ 大城 保 | 沖縄国際大学 商経学部経済学科 教授 |
| ○ 小濱 哲 | 名桜大学 国際学部観光産業学科 教授 |
| ○ 洲鎌 孝 | (財) 沖縄観光コンベンションビューロー 常務理事 |
| ○ 伊計 忠 | 国頭村 安田区長 |
| ○ 富山 光健 | 国頭村 安波区長 |
| ○ 金城 次雄 | 国頭村 辺野喜区長 |
| ○ 賀数 ひろみ | 安波区婦人会長 |
| ○ 崎浜 秀安 | 国頭村商工会長 |
| ○ 山川 安雄 | 国頭村ツーリズム協会会長 |
| ○ 大嶺 進一 | 国頭村森林組合長 |
| ○ 比嘉 和夫 | 沖縄県 土木建築部 河川課長 |
| ○ 桃原 利功 | 沖縄県 企画開発部振興開発室北部振興班副参事 |
| ○ 伊波 芳規 | 沖縄県 企画開発部地域・離島課水資源開発班副参事 |
| ○ 我那覇 晃 | 沖縄県 文化環境部 自然保護課長 |
| ○ 青山 銀三 | 環境省 自然環境局 沖縄奄美地区自然保護事務所長 |
| ○ 山口 輝史 | 九州森林管理局 沖縄森林管理署長 |
| ○ 比嘉 基和 | 国頭村役場 助役 |
| ○ 宮城 馨 | 国頭村教育委員会 教育長 |
| ○ 玉城 吉勝 | 国頭村役場 企画財政課長 |
| ○ 金城 光彦 | 国頭村役場 総務課長 |
| ○ 金城 幸男 | 国頭村役場 経済課長 |
| ○ 東恩納 淳 | 国頭村役場 建設課長 |
| ○ 金城 直備 | 国頭村教育委員会 社会教育課長 |
| ○ 古堅 正幸 | 国頭村役場 振興策推進室長 |
| ○ 徳永 敏朗 | 沖縄総合事務局 開発建設部 流域調整室長 |
| ○ 高良 保英 | 沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所長 |

(敬称略 順不同)

第2回 安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョン策定委員会

日時：平成15年12月8日（月） 10:00～12:00

場所：国頭村立農民研修ホール

議 事 次 第（案）

○ あいさつ（大城委員長）

議

事

（1）懇談会の報告

（2）資料説明

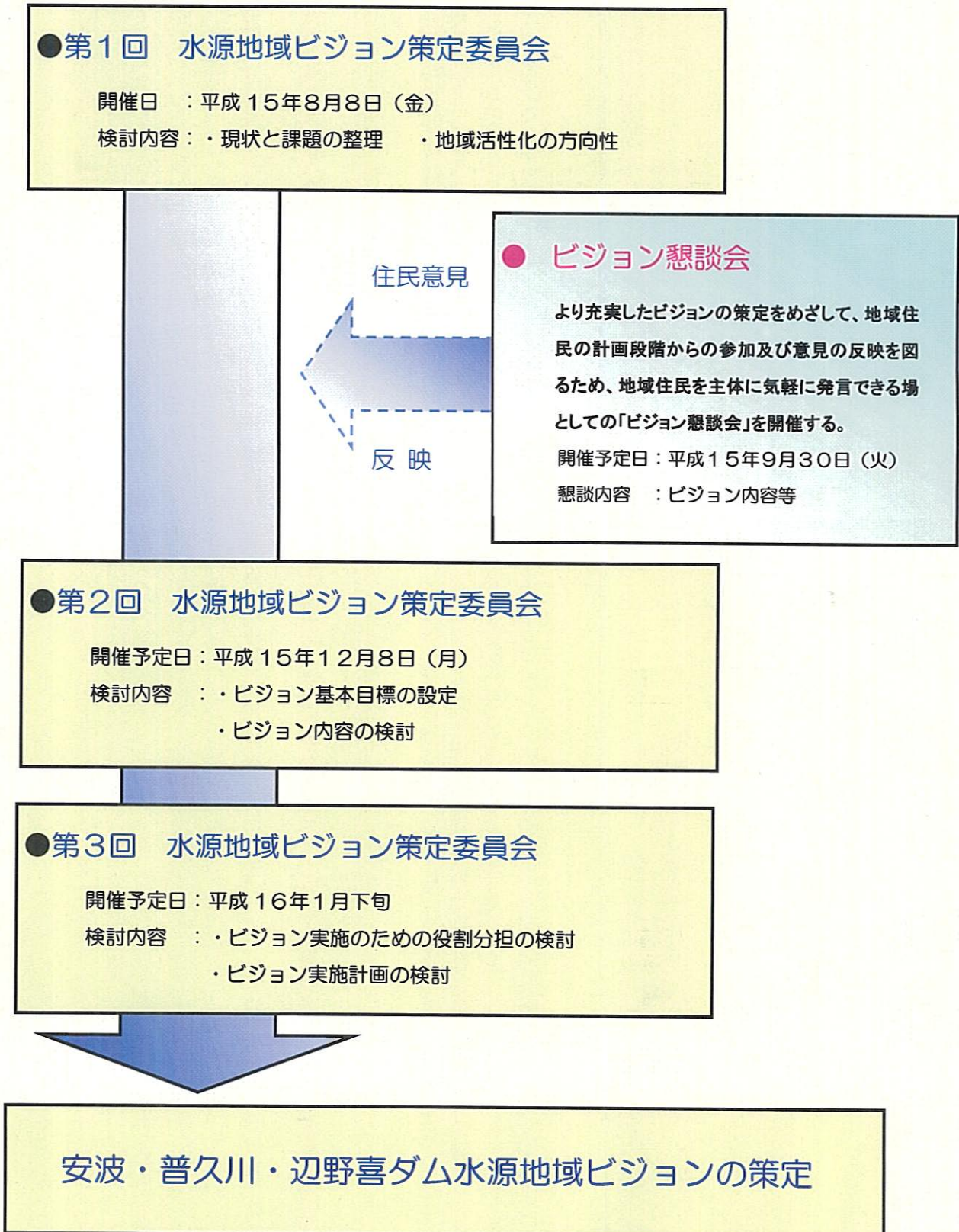
- ・水源地域ビジョンのテーマと基本目標
- ・水源地域ビジョンの内容（案）について

（3）意見交換

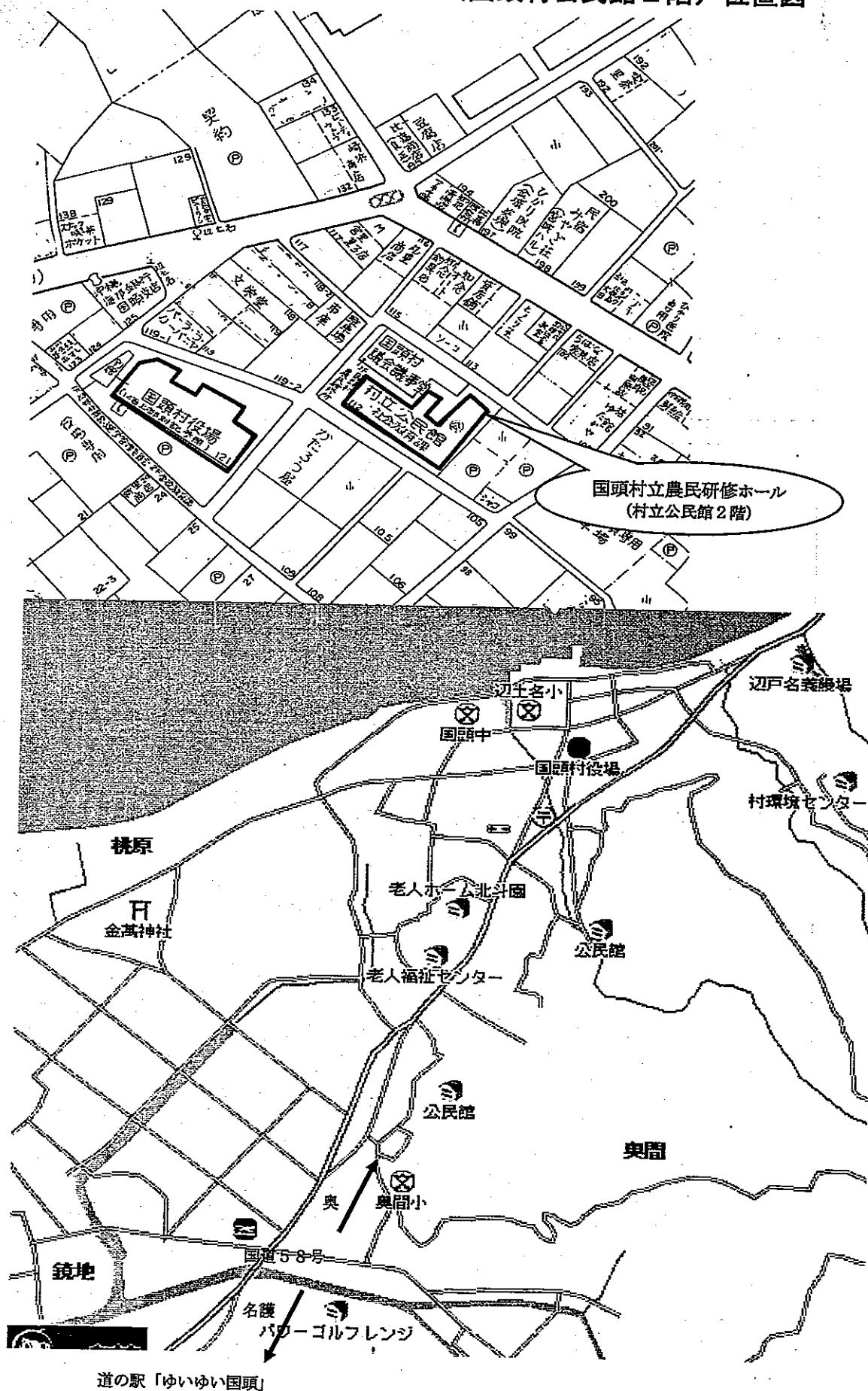
（4）その他

- ・今後のスケジュール

安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョン策定フロー（案）



国頭村立農民研修ホール（国頭村公民館2階）位置図



水源地域ビジョンとは

○主旨

- (1) 従来、ダムは治水、利水等主に下流地域の国土保全、国民生活の安定、産業経済の発展のために利用されてきました。
- (2) 21世紀においては、これらのダムの効果に加えて、ダム及び水源地域の豊かな自然、文化等を活用した地域の振興及び、バランスのとれた流域の発展を図ることにより、21世紀のランドデザインの一部として機能することが期待されます。
- (3) このため、国土交通省では、直轄ダム、水資源開発公団ダムについて、地域ごとに、ダム水源地域の自治体等と共同で、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るための「水源地域ビジョン」を策定することとしました。
- (4) 水源地域ビジョンの策定・推進に当たっては、地方整備局等が中心となり、流域住民、関係行政機関等と連携して、総合的な地域支援を実施して行きます。
- (5) 国土交通本省においては、ダム事業を所管する河川局、水源地域対策を所管する水資源部（水源地域対策課）、公園の整備等を所管する都市・地域整備局（公園 緑地課）が連携して、支援を行います。

○水源地域ビジョンの概要

(1) 目標

ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図るとともに、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることです。

(2) 内容

ダム湖周辺の豊かな水辺と緑を活かした公園整備等、地域の特色とダムを活かした連携によるハード整備・ソフト対策を行います。また、水を軸にした地域間交流、地場産業の振興、豊かな自然・文化の提供等も行います。

(3) 手法

水源地域ビジョンの策定・推進について、地方整備局等が総合調整・支援を行うとともに、関係機関と連携し、人づくり・啓発活動、相談窓口の設置、情報発信等により水源地域ビジョンの推進を図ります。

○対象ダム

国土交通省所管の直轄ダム、水資源開発公団ダム

○策定状況

対象ダムのうち、平成13年度から全国の23ダムで策定が開始され、平成14年度に30ダムが新たに策定に着手し、平成14年度末で、水源地域ビジョンは全国21ダムで策定公表されています。

～自然を体感し遊び学べる～

まなびの里をめざして

地域活性化の資源として期待される福地・新川ダム―――。

平成15年3月、県内では初めて『福地・新川ダム水源地域ビジョン』が策定されました。水源地域ビジョンは、自治体や住民などがダム管理者と共同で策定するもので、水源地域の活性化へ向けた行動計画となります。

県内外の観光客などを対象に「～自然を体感し遊び学べる～まなびの里」づくりがテーマ。ダム湖面を活用した自然観察船や、農漁業の体験学習「やま学校・うみ学校」の推進、エコツアーガイドを育成する「あがりの達人塾」の設立など21項目にわたる行動計画を設定しています。今後は、官民一体となった推進協議会を設置し、これらの行動計画を進めていきます。

(お問合せ) 東村 企画観光課 0980-43-2201, 沖縄総合事務局 流域調整室 098-862-1457



＜安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョンの概要＞

(第1回委員会：平成15年8月8日)

- ・ 沖縄本島北部地区の水源地域活性化をサポートする『第1回 安波・普久川・辺野喜ダム水源地域ビジョン策定委員会』が平成15年8月8日、国頭村観光物産センター「ゆいゆい国頭」で開かれました。
- ・ 策定委員は、大城保沖縄国際大学教授を委員長に、学識経験者、住民、沖縄県、国頭村、沖縄奄美地区自然保護事務所、沖縄森林管理署、沖縄総合事務局など26人。この日は、国頭村における現状と課題を抽出し、地域活性化の方向性について検討を行いました。
- ・ 委員からは、「過疎高齢化が進む。いかに定住人口を増やすのか」「まず住民の生活を豊かに。その利便性の向上が必要」「豊かな自然を活かした観光振興を」「ビジョンを実効性あるものに」などの意見が出されました。また、地域住民の視点に立ったビジョン策定の一環として、地域の‘こえ’を反映させるための住民懇談会の開催を確認しました。
- ・ なお、県内では現在、福地・新川ダム水源地域ビジョンが策定されており、安波・普久川・辺野喜ダムにおいては本年度中の策定をめざしています。